

日本生産性本部 主席経営コンサルタント 鍛冶田 良



(かじた りょう)

1977年生まれ。埼玉県出身。青山学院大学理工学部卒。金沢工業大学大学院イノベーションマネジメント科修士課程修了。中堅建材メーカーにて現場でのモノづくりを実践した後、日本生産性本部「経営コンサルタント養成講座」を修了。生産性向上、品質システムの改善、検査業務の生産性向上と不良流出低減、マーケティング戦略の立案、業務改善、事業デューデリジェンス、経営実態の把握と中期経営計画策定支援、オペレーション改善、業務の仕組み化等のコンサルティングおよびコストダウンやIE生産管理、改善等の人材育成を担う。中小企業診断士。品質管理推進責任者。公害防止管理者（水質1種、大気1種）。MBA（経営管理）。主な著書として『現場改善』（中央経済社）がある。

私の経営コンサルティングは、現場に数多くの成功体験を味わってもらうことに主眼を置いていく。現場が成功体験をすると、雪だるまが大きくなるように改善活動が活発化し、「勝手に会社をよくしてくれる人材」が育つからである。「勝手に会社をよくしてくれる人材」が増えることが、最も成果につながるのだと考えている。

理解し応用し得る能力を与え、指導終了後も自力で向上しようことを目標としなければならぬ」と示され

小さな成功体験が大きな改善に

ていることもあるが、私の原体験によるところが大き

い。

日本生産性本部の経営コンサルタントになる前は、

中堅建材メーカーで生産技術やマーケティングなどを

経験してきた。3カ月で営業利益の10%を超えるコストダウンを実現し、大クレームや遅延続きの工場移転プロジェクトを収め、新製

品を開発して1年で数十億円

の売り上げを上げるなど、成果を出していたため、その会社よりも規模の小さ

い企業の改善支援は、問題

なくできると考えていた。

しかし、現実には厳しかった。社長から依頼された私

サルタントを辞めようかと

も考え始めた。

あるとき、休憩時間に現場の人とコーヒを飲んで

た。さらには、それを見た

他の職場にも波及し、会社

としてみました」とのこと。

自分でアイデアを考え、それを実行しようまくいく

という小さな成功体験が、

一つの職場を大きく変えた。さらには、それを見た

他の職場にも波及し、会社

としてみました」とのこと。

自分でアイデアを考え、それを実行しようまくいく

という小さな成功体験が、

一つの職場を大きく変えた。さらには、それを見た

他の職場にも波及し、会社

としてみました」とのこと。

自分でアイデアを考え、それを実行しようまくいく

という小さな成功体験が、

一つの職場を大きく変えた。さらには、それを見た

15人の
経営コンサルタントによる
生産性向上策
～企業の成長と、
働く人のウェルビーイングを目指して～

公益財団法人 日本生産性本部
コンサルティング部 編

生産性の本質は前進だ。
明日は今日に勝るといふ精神が、世界を動かす。
できるだけ良い方へ、少しでも前へ、
企業の高成長、働く人のウェルビーイングを目指して。
あなたの明日は、どんな姿だろうか。
いつか明日へ

公益財団法人 日本生産性本部
コンサルティング部

ISBN 978-4-8001-1111-1
定価 1,500円（税別）

Chapter 3: 活気を取り戻す現場改善の進め方

自分たちの工夫が仕事に反映され、生産性が上がればやる気が出る。これが現場改善の活気の源泉であり、本来の改善の姿である。しかし、現場を取り巻く環境が変わり、この当たり前のことが難しくなっている。これまでの現場改善のステップを見直し、本来の改善の姿を取り戻していく。

全体に改善の兆しが見えてきた。

その光景を見たとき、私

がやってきたことは、考える力と自主性を現場から奪っていたのだと気がついた。それまでの「経営コンサルタントがプランを作り、それを現場に指示する」というやり方を大きく変え、現場が一つでも多くの成功体験を味わうための支援を数多く取り入れることにした。

たとえば、チャレンジできる環境づくり、自分の成果を自慢する「ジコシマン」大会の開催、経営コンサルタントからのフィードバックを増やす改善アプリの導入などだ。

一つの成功体験が次の少し大胆な改善につながり、それが成功すると、さらに大きな改善のチャレンジにつながる。雪だるまがどんどん大きくなるように、私が指示をしなくても勝手に改善が進んでいくのである。これが最も生産性の高い経営コンサルティングだと私は考えている。